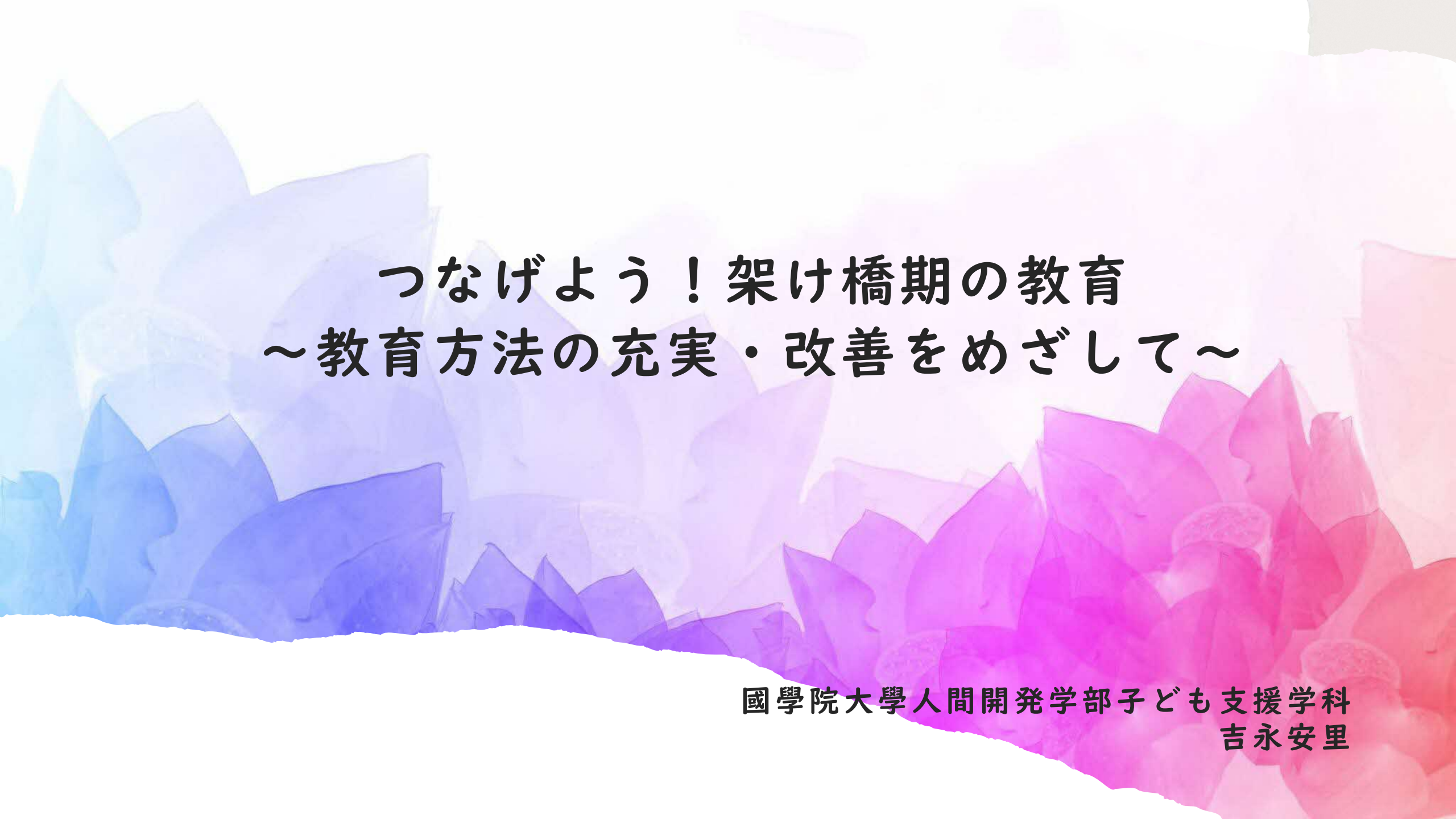




つなげよう！架け橋期の教育 ～教育方法の充実・改善をめざして～

國學院大學人間開発学部子ども支援学科
吉永安里

幼児教育WG・保育専門委員会取りまとめ案（概要）

～資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の実現～

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性

- 平成29年告示の3要領・指針において、幼児教育の内容の基準に関して整合性が図られるとともに、保育所は「幼児教育を行う施設」であることが明記された。これにより、幼稚園・保育所・認定こども園に通う乳幼児に対して、施設類型に関わらず、内容の整合性が図られた3要領・指針に基づく幼児教育の充実が進められている。
- 幼児教育の質の向上を図る上で、乳幼児にとっての「学び」である「遊び」のプロセスが、資質・能力の育成に深く結び付いていくという「遊びの深まり」を実現することが不可欠であることから、「遊びの深まり」の実現を目指し、改善を図る。

（補足イメージ参照）

2. 資質・能力の在り方、構造化のポイント

- 「学びに向かう力、人間性等」の主要な要素については、従前より幼児教育が重視してきた心情、意欲、態度が育つ中で育まれることなども考慮しつつ、乳幼児の発達を踏まえて整理。
- 3要領・指針が資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」を実現する手掛かりとなるよう、「育みたい資質・能力の3つの柱」、「3つの視点及び5つの領域のねらい及び内容」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性を明確化し、相互の整合性を図るとともに、「0歳児」、「1～2歳児」、「3歳以上児」のねらい及び内容のつながりを整理する。これにより、長期的な視点から乳幼児の資質・能力の育成を促す構造化を行い、改善を図る。

3. 内容の改善の在り方

- 0歳から18歳までの「学び」を見通し、「学び」の連続性・一貫性を図るため、必要な見直しを行う。
- 遊びの中で多様な動きを伴う体験の充実と身体感覚の育成：0歳児から、園生活全体の中で乳幼児の自発的な活動としての遊びを通して、多様な動きを伴う体験を充実するとともに、そうした体験を通して身体感覚を養う指導を充実。
- 他者と関わり協同する力の育成：0歳児から、他の乳幼児への関心を深め自ら関わろうとする意欲を支える援助を充実。人と関わる力が育まれていく中で、園という身近な社会において、自分とは異なる他者と関わり、他者とともに目的を形成し、その目的に向かって協同していく力の育成を図る指導を充実。
- 言葉を用いて考える力の基礎の育成：0歳児から、受容的・応答的な関わりを基本としつつ、豊かな言葉掛け等を通して、言葉の理解や獲得を促すとともに、乳幼児が自分なりに考えたり、思いを伝えようとしていたりする意欲を支える援助を充実。直接的・具体的な体験に伴い、思いや考えを表したり伝えたりしたくなり、それらを言葉で表すようになっていく中で、言葉を用いて考える力を育むため、援助を受けながら、更に考えようとして言葉を用いる指導を充実。

4. 指導・評価の改善充実の在り方

- 施設類型に関わらず、全ての幼稚園・保育所・認定こども園において、指導の改善が図られるよう、乳幼児理解に基づいた評価を行うことを規定。記録と振り返りを充実するとともに、乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る視点をもつことを重視。「学び」を見取って振り返り、環境の構成・再構成や援助など実践を改善充実することにより、「遊びの深まり」を実現し資質・能力の育成を図る。
- ICTの活用に当たっては、発達に応じて、乳幼児の直接的・具体的な体験の充実を図る道具として活用することとし、乳幼児の直接的・具体的な体験を阻害する活用とならないよう、必要な留意点を示す。

5. 保育所及び幼保連携型認定こども園における養護等の改善充実の在り方

- 乳幼児は、生命の保持と情緒の安定が図られ、見守られているという安心感や信頼感に支えられながら、行動範囲を広げたり、自ら身近な環境に働き掛けたりしながら成長していくことから、養護を基盤として、乳幼児期全般を通して育ちと学びを支えていくことができるよう、その位置付けや記載内容の整理を図ることが重要。

6. 特別な配慮を必要とする乳幼児への指導や支援の改善充実の在り方

- 障害のある乳幼児への指導の充実には、「基礎的環境整備」の充実を促すとともに、「合理的配慮」の提供が確実に行われるよう規定。
- 外国人の乳幼児等の指導の充実には、日常的な関わりや言葉掛けにおいて、「日本語の力を育む視点」をもち、一人一人の実態に応じた指導の工夫を行うことを重視。

7. 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の在り方

- 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校において、対話を通じて互いの教育への共通理解を図るとともに、共通の教育的視点に基づき「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成するなどして、学びのつながりを意識した実践の改善を図ることにより、それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図る。

8. 家庭や地域との連携・支援の在り方

- 幼稚園・保育所・認定こども園と家庭とが、「乳幼児の育ちや学びを共に支える関係性」であることを踏まえた連携・支援の充実を図るとともに、特別な配慮を必要とする乳幼児の保護者等への個別支援や地域の保護者の子育てを支援する取組の一層の充実を図る。

9. 各幼稚園・保育所・認定こども園の幼児教育を支える地域の体制の在り方

- 設置者や施設類型に関わらず、3要領・指針に基づく質の高い幼児教育が行われるよう、地域において、各幼稚園・保育所・認定こども園を支える体制の整備を推進する。

資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の実現

- 全ての乳幼児に対して質の高い幼児教育を提供するため、設置者や施設類型に関わらず、幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）において、資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の実現を図り、幼・小・中・高を通じた学びの改善を図る。

乳幼児は園生活の中で「遊び」を通して「学ぶ」

乳幼児理解に基づく環境構成と援助



転がす車輪の大きさを
変えたらどうなるかな？
やってみよう！
やってみよう！
面白そう！なんでだろう？
すごーい！
たくさん傾いていると
速く転がるぞ！

- ・乳幼児期は、自らの興味や関心に基づく遊びにおいて、様々なものや人などの身近な環境に直接的・具体的に関わり、成長に必要な体験を積み重ねていく時期。
- 幼児教育は、環境を通して行うものであることを基本とし、直接的・具体的な体験を通して資質・能力を育む。
- 乳幼児は、園生活の中で多様な遊びを通して様々なことを学んでいる。
- ・乳幼児一人一人への理解に基づき、乳幼児一人一人に応じて行うことが重要。

資質・能力（「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」）を一体的に育成

一層の深化

自発的な活動としての遊びが、資質・能力の育成に向けて一層充実することにより、「遊びの深まり」が実現されるよう、幼稚園教諭・保育士・保育教諭が、意図的・計画的に環境の構成・再構成や援助を行うことが重要

→ 乳幼児の自発的な活動としての「遊び」を更に深める手掛かりとなる要領・指針への改善を図る

- ★ 「学び」の深まりに向けた「遊びの深まり」の実現
- 「遊びの深まり」を構想しやすくするための資質・能力の構造化
 - ・ 「育みたい資質・能力」、「3つの視点及び5つの領域のねらい及び内容」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性の明確化・整合性
 - ・ 遊びを通して「好き」や「得意」を見付けたり広げたり深めたりする直接的・具体的な体験の充実
 - 0歳からの学びのつながりを踏まえた内容の改善
 - ・ 言葉を用いて考える力の基礎の育成
 - ・ 他者と関わり協同する力の育成
 - ・ 遊びの中で多様な動きを伴う体験の充実と身体感覚の育成

↓ 幼・小・中・高を通じた学びの改善

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

× 当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

- ← 学びを踏まえた改善
- ★ 乳幼児理解に基づく指導と評価の改善充実
- 設置者・施設類型に関わらず、乳幼児理解に基づく評価を実施・充実
 - ・ 園生活で見られる乳幼児の具体的な姿の記録と振り返りの充実
 - ・ 遊びの中の「学び」を見取る視点の重視による指導の改善

↓ 学びの可視化・言語化
(幼児教育で育まれた資質・能力を共有するための「対話のための資料」の作成・活用)

- ← 学びのつながりを意識した改善
- ★ 幼児教育と小学校教育との円滑な接続
- それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実
 - ・ 合同研修や相互参観等の機会を充実し、対話を通じて互いの教育への共通理解の促進
 - ・ 共通の教育的視点に基づき、「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成するなどして、学びのつながりを意識した実践の改善

※ 幼児教育：0歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所、認定こども園における教育

資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」のイメージ

- 要領・指針を手掛かりに、幼稚園教諭・保育士・保育教諭が、3つの視点・5つの領域のねらい及び内容の理解に基づきつつ、乳幼児の姿から見取った遊びの中の「学び」を生かして、環境の構成・再構成や援助を行うことを通じて、「遊びの深まり」を実現し、乳幼児の資質・能力の育成を図る。

記録と振り返りの充実、園内・他園・小学校との対話を通して、
乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る

長期的視点からは、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」（5歳児後半において遊びが深まり、資質・能力が総合的に育成・発揮された時の姿）を念頭に。

乳幼児の姿からの見取り

**乳幼児理解
の深まり**

「学び」を見取り、
実践を改善充実することにより、
「遊びの深まり」を実現

指導計画に基づく**実践の充実**
(環境の構成・再構成、援助)

教育的意図

(ねらい及び内容に基づく構想の創意工夫)

3つの視点・5つの領域

- ・**ねらい**：幼児教育において育みたい資質・能力を視点・領域ごとに明確にし、乳幼児の生活する姿から捉えたもの。実践を構想する際の環境構成や援助に込める意図として示されている。
- ・**内容**：ねらいで示した資質・能力の育成において重要な乳幼児の経験として必要な構成要素を明確にしたもの。各視点・領域の特性を踏まえ、乳幼児の経験が豊かなものとなるよう、乳幼児の姿を捉えた環境構成や援助の骨子となる。

資質・能力が育ちつつある具体的な乳幼児の姿

知識及び技能の基礎

(遊びや生活の中で 豊かな体験を通して、
何を学んだか、何に気付いたか、何が分ったか、
何ができたか、何をしようとするか)

**思考力、判断力、表現力等
の基礎**

(遊びや生活の中で 気付いたことや、できる
よつみやことなどを使いどう考へたり、試
したり、工夫したり、表現したりするか)

学びに向かう力、人間性等

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによ
い生活を送るか)

**「遊びの深まり」の実現による
資質・能力の一体的な育成**

諸感覚を働かせ心と体が動く
直接的・具体的な体験

「好き」や「得意」を
見付け広げ深める

遊びが深まる過程

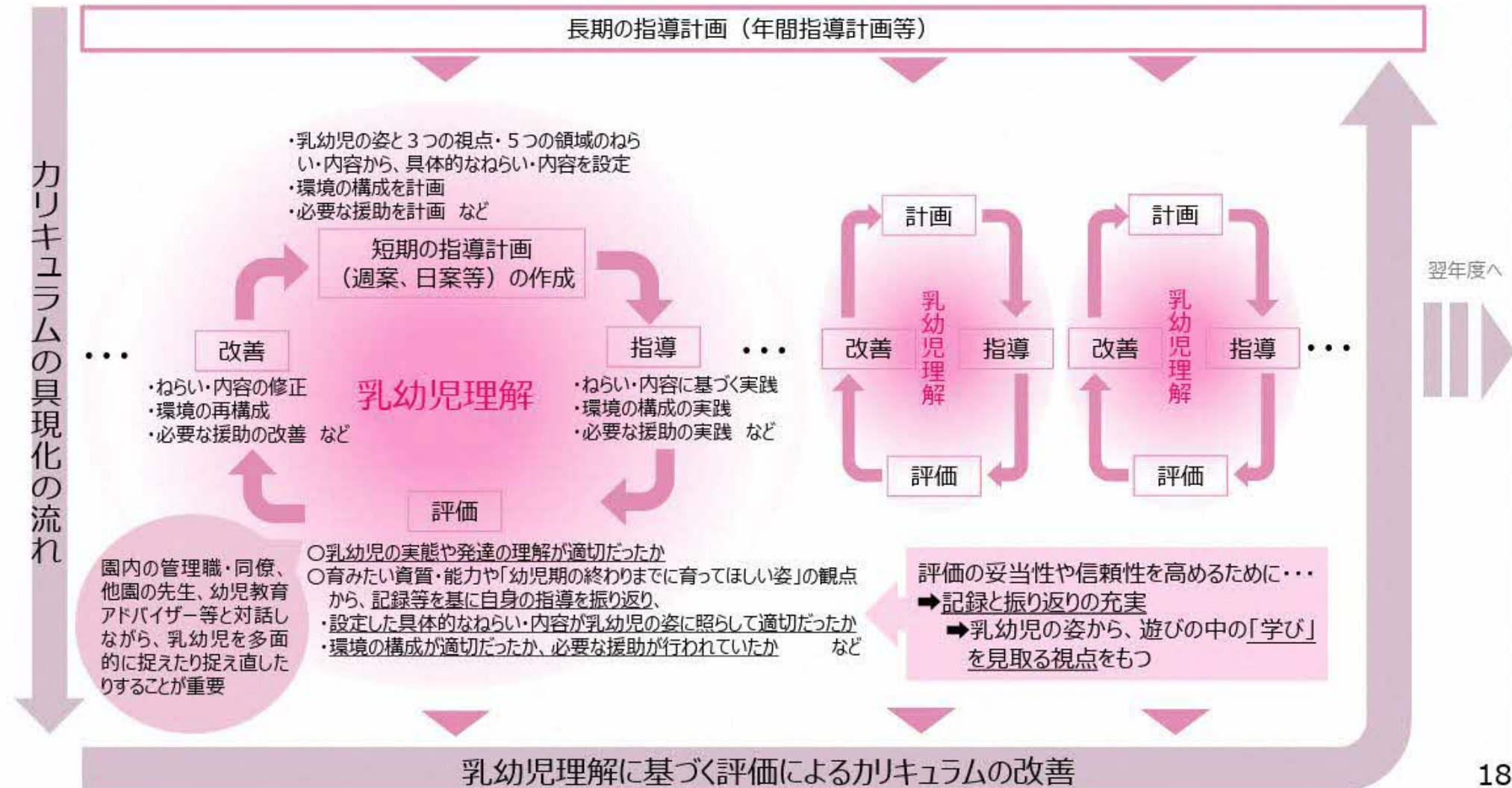
試してみよう！
やってみよう！
態度

やってみたい！
もっと〇〇してみたい！
意欲

面白そう！
なんでだろう？
すごい！
心情

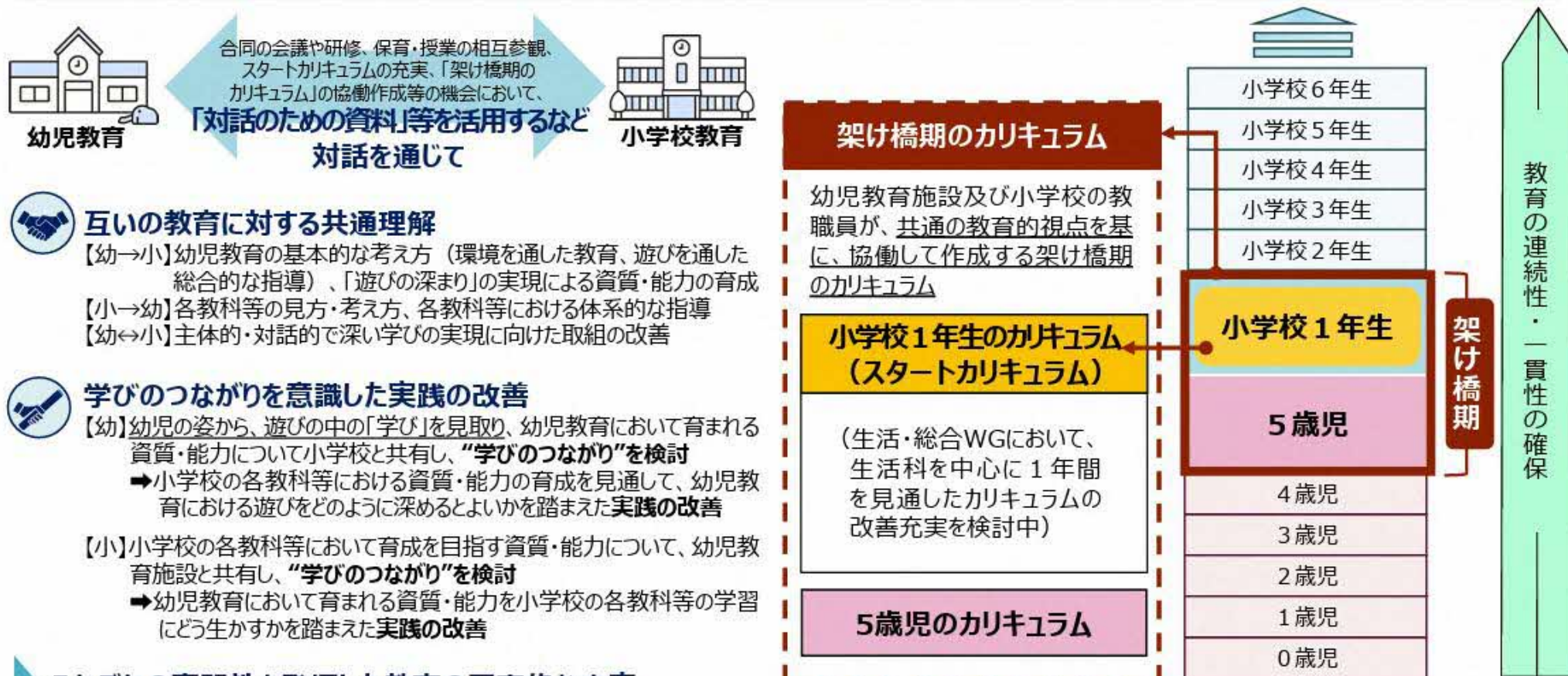
乳幼児理解に基づく指導と評価の改善充実の在り方のイメージ

- 施設類型に関わらず、全ての幼稚園、保育所、認定こども園において、指導の改善が図られるよう、乳幼児理解に基づく評価を行う。
- 評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価の参考となる記録と記録に基づく振り返りを充実するとともに、その際、乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る視点をもつことを重視。



幼児教育と小学校教育との円滑な接続のイメージ

- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るに当たっては、それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図る観点から、互いの教育への共通理解を図るとともに、幼児教育と小学校教育との学びのつながりを意識した実践の改善を図ることが重要。
- 設置者や施設類型に関わらず、幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）及び小学校や地域の実情に応じ、対話を通じて、
 - ① 互いの教育に対する共通理解を図り、
 - ② 小学校1年生が幼児教育施設でどのような生活や学びをしていたのかを踏まえつつ、スタートカリキュラムを充実し、
 - ③ さらに、「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成等する過程を通じて、学びのつながりを意識した実践の改善を図る。



※「幼児教育」：0歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所、認定こども園における教育。
「幼」は幼児教育の略称として使用。

【今後の整理イメージ】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

学びを方向付ける人間性
思考や行動を自身の豊かな人生や
より良い社会に向けていく人間性

※民主主義、共生社会、持続可能な社会、環境、個人・社会のウェルビーイング、アイデンティティ、エージェンシー 等と関連

学びの主体的な調整
自分の思考や行動を客観的に把握し認識（メタ認知）しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力

初発の思考や行動を
起こす力・好奇心

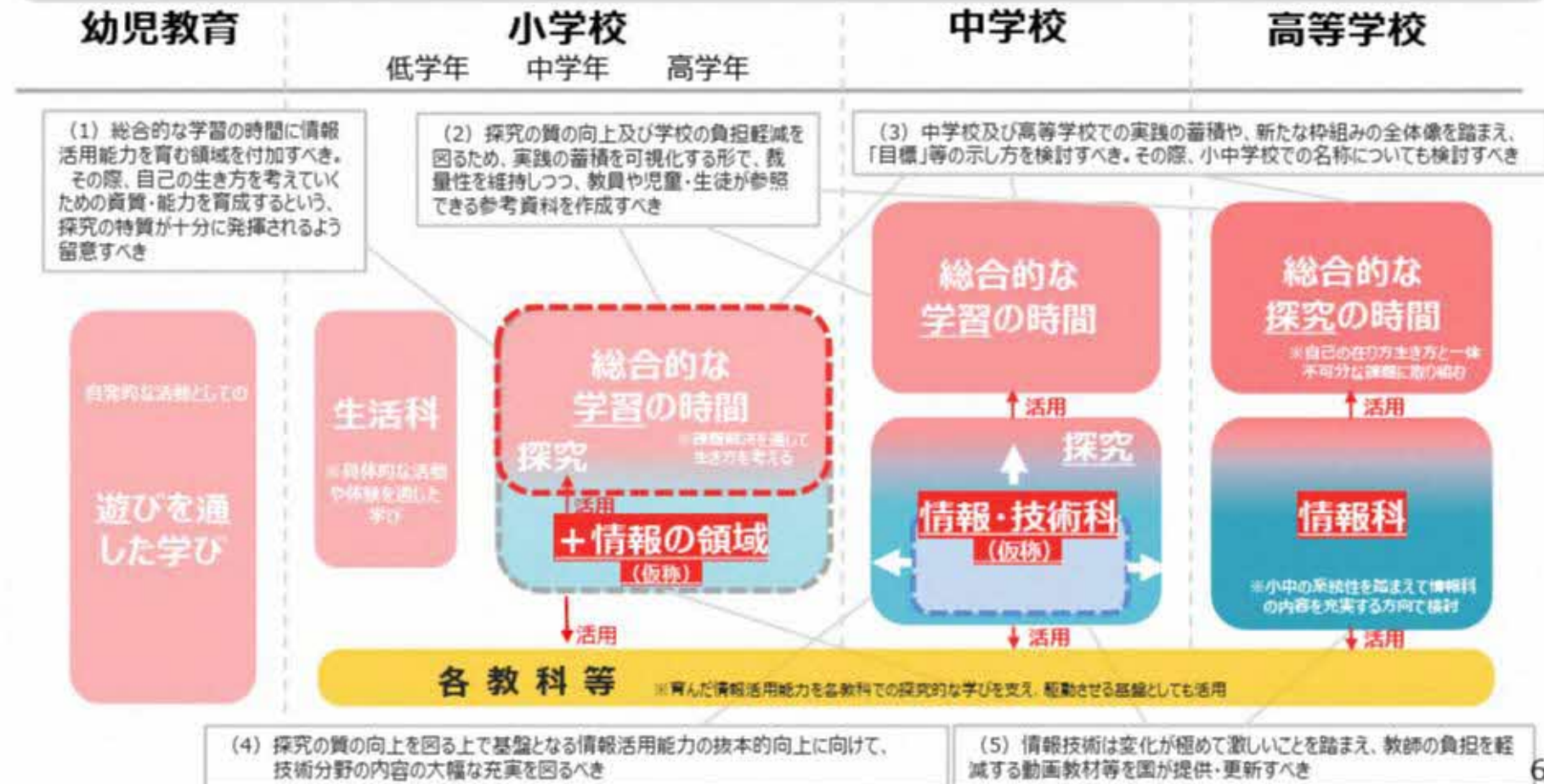
教師の指導を含む他者からの
フィードバック、書籍等との対話、
多様な他者との協働・共感や
対立の乗り越え等を通じて学び
を支える態度

学びに向かう力、人間性の高まり

質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み（②全体イメージ）

補足イメージ4-⑥

- 主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「質の高い探究的な学び」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置付け、探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る ⁽¹⁾ ⁽⁴⁾とともに、教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策 ⁽²⁾ ⁽³⁾ ⁽⁵⁾を検討すべき



まず、スタートカリキュラムで大切にしたいこと

改めて・・・

なぜ幼保小の接続が大切なの？

幼児教育と小学校教育の特徴

幼児教育



- ≫環境を通した指導
- ≫幼児の自発的・主体的な遊び
- ≫総合的な指導
- ≫無自覚な学び

小学校教育



- ≫教科書、教材、教具等を用いた指導
- ≫教師の発問・指示による授業・活動
- ≫教科・領域別の指導
- ≫自覚的な学び

幼児教育と小学校教育のギャップ

▷ 幼保小要領・指針の改訂（定）

① 小学校学習指導要領改訂（1989年）

- ・生活科の創設（5歳児の就園率94%）

⇒ 直接体験と総合的な指導を重視する教科

= 小学校低学年児童の発達

幼児教育からの連続性を考慮した教科

学びのつながり

架け橋期：義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間。**生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期**

・子供の成長を切れ目なく支える観点からは、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、乳児や幼児それぞれの特性など発達の段階を踏まえ、**一人一人の多様性や0～18歳の学びの連続性**に配慮しつつ、教育の内容や方法を工夫することが重要

つまり…

⇒2年間のカリキュラムを考えればそれでよい、ということではない

⇒幼児教育と小学校教育の差異は他の学校段階等間と比較しても違いが大きい

⇒年齢がまだ幼い（多くは6歳の子どもたちである）

スタートカリキュラムのマネジメント

子供の姿が出発点

PLAN

3月末までに

校内組織を
立ち上げて準備しよう

☐ 意義、考え方、ねらいなどを全教職員で
共通理解し、保護者へ説明する

☐ 幼稚園・保育所等への訪問や教職員との
意見交換、要録等から子供の実態をつかみ、
指導や支援、子供のよさを小学校につなぐ

☐ スタートカリキュラムを編成する

校内組織例「スタートカリキュラム作成委員会」

校長・教頭、教務主任、現1年担任、新1年担任、生活科主任、養護教諭、
特別支援教育コーディネーターなど

ACTION

時期を捉えて、
反省・検証・改善しよう

☐ 長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの
子供への指導に改善点を生かす

☐ スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料を
データベース化し共有する

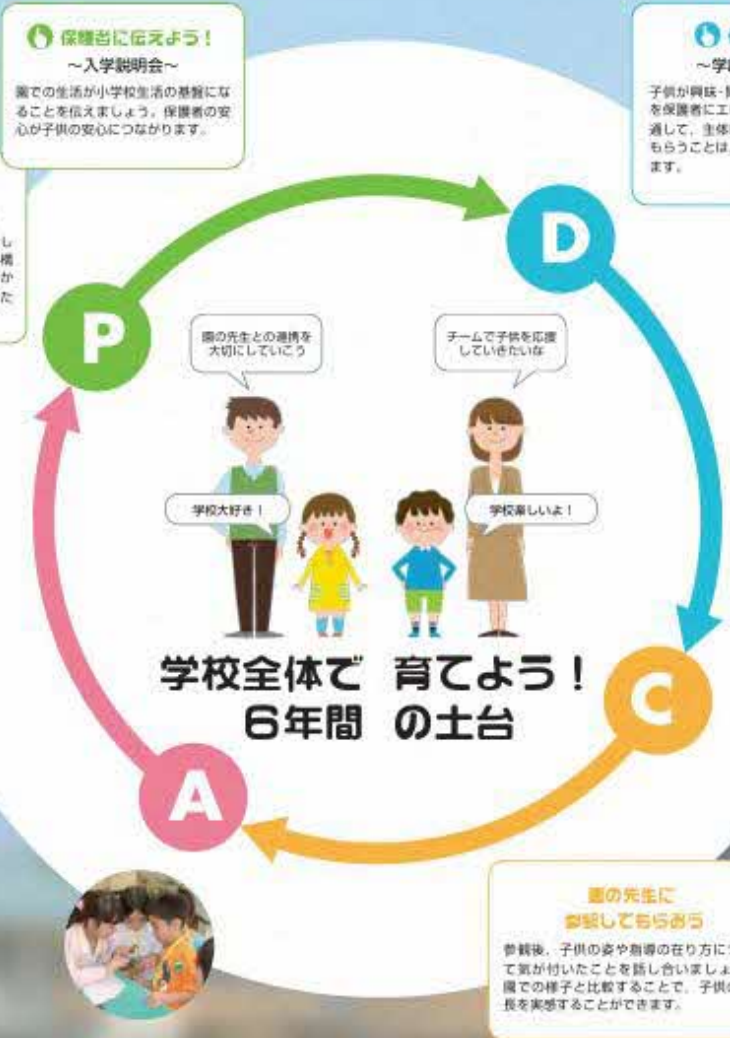
☐ 1月から3月に掛けて、次年度のスタートカリキュラムの
改善を図る

改善の例

☐ 連休明けに不安になった子供が多かったので、夏休み明けに心をほぐす
活動を取り入れる

☐ 写真入りで手帳を示すと落ち着いて生活できたので、子供の目線で学習
環境を見直す

☐ 次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて、幼稚園・保育所等の
教職員との合同研修を計画する



DO

4月から

全校で協力体制を組み
スタートカリキュラムに取り組もう

☐ 学級担任だけでなく、全教職員で協力
体制を組み、見守り、育てる

☐ 発達の特徴を生かし、具体的な活動や
体験を取り入れた授業を工夫する

☐ 環境構成を工夫し、安心感がもてるよう
にする

協力体制の例

☐ 入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入
ることができるよう、学校全体で時間割を調整
する。そうすることで、他学年の担任も間接的
にスタートカリキュラムに協力することがで
きる。

CHECK

子供の姿・指導の在り方を
語り合おう

☐ 取組がねらいに沿っているか、子供の姿で日々評価する

☐ 学年会などで、子供の成長する姿や指導方法について情報交
換する

☐ スタートカリキュラム作成委員会や職員会議などで、実施
状況を共有する

評価方法の例

☐ 子供の姿を週案などに記録する

☐ 子供の書いたものや作品を使って評価する

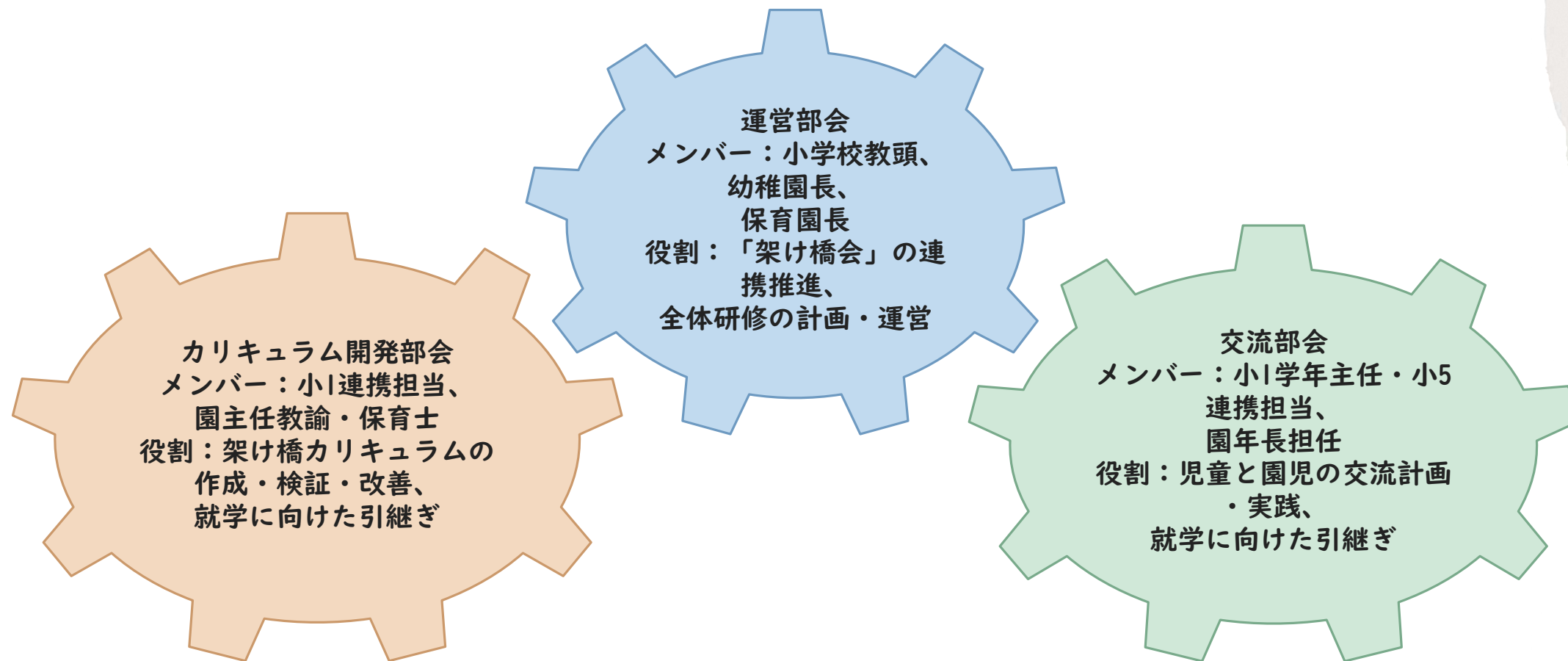
☐ 様々な立場から子供の様子を捉え評価する

**隣の先生に
お話ししてみよう**
参観後、子供の姿や指導の在り方につ
いて気が付いたことを話し合おう。
隣の様子と比較することで、子供の成
長を実感することができます。

持続可能な幼小連携・接続のために

持続可能な組織体制：3つの部会（ギア）

役割分担を明確にすることで、一部の教員への負担集中を防ぐ



「組織体制が確立し、役割分担が明確になったことで、担当者が変わっても揺るがない

【持続可能な基盤】が整いました。」

天草市教育委員会（2026）

「令和8年度幼保小の架け橋研修会（管理職研修）『幼保小の架け橋期をともにつくる
—本土北小学校区「架け橋会」』」をもとに筆者作成

生涯にわたる見通しをもった学びを

►The OECD Learning Compass 2030



2030 年に向けた生徒エージェンシー

▷エージェンシー：自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意志を持つこと

「働きかけられるというよりも **自らが働きかけること**であり、型にはめ込まれるというよりも **自ら型を作ること**であり、また他人の判断や選択に左右されるというよりも **責任を持った判断や選択を行うこと**」

▷共同エージェンシー：生徒が、共有された目標に向けて邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、相互にやり取りをし、互いに支え合う関係

「教えと学びの過程（教授学習過程）の中で **教師と生徒が協働して創っていくこと**」

「予測困難かつ大人が必ずしも答えを持っていない時代の中で、生徒が未来を形作っていくために、**多様な他者と学習を共に構築し、答えを共に創っていくこと**が求められているといえる。

「Student Agency for 2030 仮訳」

https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/OECD_STUDENT_AGENCY_FOR_2030_Concept_note_Japanese.pdf

0.	沈黙	若者が貢献できると若者も大人も信じておらず、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して若者は沈黙を保つ。
1.	操り	主張を正当化するために大人が若者を利用し、まるで若者が主導しているかのように見せる。
2.	お飾り	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が若者を利用する。
3.	形式主義・形だけの平等	大人は若者に選択肢を与えているように見せるが、その内容あるいは参加の仕方に若者が選択する余地は少ない、あるいは皆無である。
4.	若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ	若者には特定の役割が与えられ、若者が参加する方法や理由は伝えられているが、若者はプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。
5.	生徒からの意見を基に大人が導く	若者はプロジェクトの設計に関して意見を求められ、その結果について報告を受けるが、大人がプロジェクトを主導し、意思決定を行う。
6.	意思決定を大人・若者で共有しながら、大人が導く	大人が進め、主導するプロジェクトの意思決定の過程に、若者も参画する。
7.	若者が主導し、方向性を定める	若者が大人の支援を受けてプロジェクトを主導し、方向性を定める。大人は意見を求められたり、若者が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は若者が行う。
8.	若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する	若者がプロジェクトを主導し、意思決定は若者と大人の協働で行われる。プロジェクトの進行や運営は若者と大人の対等な立場で共有される。

Hart, R. (1997), Children's Participation: The Theory and Practice of Involving Young Citizens in Community Development and Environmental Care, UNICEF. Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Færch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).

令和6年度

▷遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”

～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、
学びに向かう力）の育成～

（動画コンテンツ）

・ <https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>

▷幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？（幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料）

令和7年度

・ ▷幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ（幼児教育の重要性に関する普及啓発動画）

・ https://www.mext.go.jp/content/20250509-mxt_youji-000035147_7.pdf

◆ 幼児教育の重要性お知らせポスター

ポスター

**幼児期に
本当に大切な学びって
何ですか？**

幼児期は、「遊び」の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら素手で関わりながら、
豊かな多様な体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていく時期です。
小学校以降の学びの基礎となる「学びの芽」。
そんな「学びの芽」はどのように育てられているのでしょうか？



見てね！
幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

 幼児教育とは何のため？ (約2分)	 「遊びは学び」ってどういうこと？ (約7分)	 「学びの芽」を育む園の工夫って？ (多様な遊び編) (約9分)	 「学びの芽」を育む園の工夫って？ (どろだんご遊び編) (約7分)
---	--	---	--

遊びは学び 学びは遊び
「やってみよう」が「学びの芽」

文部科学省

(文部科学省HP)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html



◆ 幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

動画
コンテンツ

幼児教育は何のためであるのか、幼稚園等においては、子供たちに遊びを通して、どのように資質・能力を育てているのかについて、各動画で解説しています。

幼児教育は何のため？ (約2分)

✓ 幼児期の大切な学びが分かる動画

<https://youtu.be/MExUaZ6M3G0>



「遊びは学び」ってどういうこと？ (約7分)

<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>



「学びの芽」を育む園の工夫って？
(多様な遊び編) (約9分)

<https://youtu.be/VNjOwpuDd44>



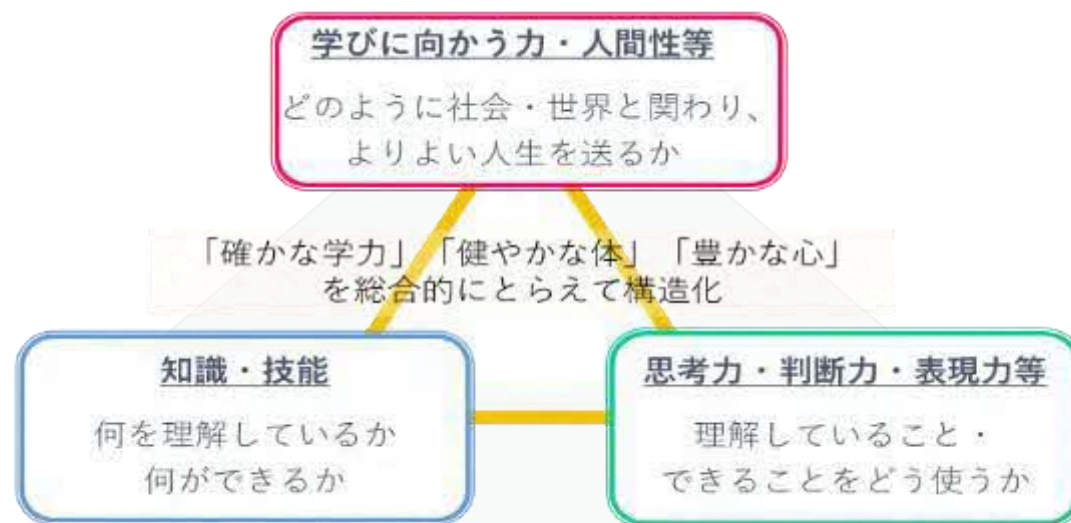
「学びの芽」を育む園の工夫って？
(どろだんご遊び編) (約7分)

<https://youtu.be/VuIP2CUKq-U>



育みたい資質・能力とそのつながり

小学校



幼児教育



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2016)

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」をもとに筆者作成

架け橋期カリキュラムのつながり

小学校低学年

生活科を中心に
合科的・関連的な指導
弾力的な時間割
→ 1年生の架け橋カリキュラム



幼児教育

遊び・活動を通して
環境を通した指導
→ 幼児期後半の
架け橋カリキュラム

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（資質・能力が育っているときの子どもの姿）				
健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

5領域	健康	人間関係	環境	言葉	表現
-----	----	------	----	----	----

弾力的な時間割の運用

指導計画案 (前期 2 週)

	4月8日 月	4月9日 火	4月10日 水	4月11日 木	4月12日 金
行事等	朝会(2年生以上)	避難訓練	1年生を迎える会 区A研	給食開始	朝スマ開始
朝	朝会 あそびタイム【～8:50】	朝スマ あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	朝スマ あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	集会 あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	朝スマ あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節
1	池上 池上 国語 なかよしタイム 【P51、52】 ・元気かな(〇〇さん) ・歌ってスキップ ・はじめての自分の名前	池上 池上 国語 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌ってスキップ ・お話しよう ・読み聞かせなど	児活 児活 児活 1年生を迎える会 ・「みんなの色」と出会う。 ・他学年と楽しくゲーム (なかよしタイム) ・お兄さんの部屋はどこだ ろう。	池上 池上 池上 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌って踊ろう ・読み聞かせ	池上 池上 道徳 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌って踊ろう ・読み聞かせ
2	国語 図工 国語 なかよしタイム ・お話しよう ・読み聞かせ	学活 学活 行事 避難訓練ってなあに ・給食室から出火 ・どうやって避難する んだろう。	算数 生活 生活 こんなこと あったよ ・学校探検に行ったことを 絵や言葉で表す。 ・絵や言葉をもとに行っ た場所を紹介する。	国語 生活 生活 お話しよう こんなこと あったよ ・学校探検に行ったことを絵 や言葉で表す。 ・絵や言葉をもとに行っ た場所を紹介する。	国語 生活 生活 お話しよう こんなこと あったよ ・学校探検に行ったことを絵 や言葉で表す。 ・絵や言葉をもとに行っ た場所を紹介する。
3	池上 池上 生活 はてなをみんなで解決 (こまごまのはてなを短冊に 書き、掲示・共有) ・直物はどうしよう。 ・防災頭巾って何。 ・黒板にお絵かきしてい い。	生活 生活 生活 学校探検 1階を探索して、はて なやびっくりを見つけ る。	池上 行事 行事 着替えてみよう 身体測定 3校時後半1～1 4校時前半1～2	生活 生活 生活 学校探検 1階を探索して、はてな やびっくりを見つける。 鍵が開かないどうし ょう。	生活 生活 算数 学校探検 1階を探索して、はてな やびっくりを見つける。 鍵が開かないどうし ょう。
4	学活 学活 音楽 みんなで仲良く帰ろう 11:20 ・歩き方を確認する。 こんな歌知ってるよ 帰りの挨拶	生活 国語 図工 こんなことあったよ ・学校探検に行ったことを絵 や言葉で表す。 ・絵や言葉をもとに行っ た場所を紹介し合う。 みんなで仲良く帰ろう。	学活 学活 音楽 みんなで仲良く帰ろう ・歩き方を確認する。 こんな歌知ってるよ 帰りの挨拶 ～12:00	学活 学活 学活 今日から給食 ・給食当番 ・給食のはてなを解決する。 ・においー給食室を外から探 検する。湯気、大きな鍋 給食の準備をしよう。	算数 算数 音楽 なかまづくりとかず 【P38～41】 ・教科書の絵を見て気づいた ことを出し合う。 ・集まりづくりを楽しむ。 おひとりじゃないさ
給食(12:00～準備)					
掃除 昼休み					

指導計画案 (前期 3 週)

	4月15日 月	4月16日 火	4月17日 水	4月18日 木	4月19日 金
行事等	見守り隊の紹介 職員会議1500	スタートカリキュラム研修会	ハロー集会(昼放送) 眼科検診1330	委員会	
朝	朝会 あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	朝スマ あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	朝スマ あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	集会 あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節	朝スマ あそびタイム【～8:50】 ※実態に合わせて調節
1	池上 池上 道徳 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌ってスキップ ・読み聞かせなど	池上 池上 国語 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌ってスキップ ・読み聞かせなど	池上 池上 道徳 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌ってスキップ(み んなの色) ・読み聞かせなど	池上 池上 国語 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌ってスキップ ・読み聞かせなど	池上 池上 道徳 なかよしタイム ・あいさつ ・元気かな ・歌ってスキップ ・読み聞かせ(からすのバ ン屋さん)など
2	お話しよう～テーマを決めて自分のことを話す～				
	元気な声であいさつしよう ・見守り隊の方のあいさつ について振り返る。 ・これからの行動に活かす。	なかまづくりとかず ・教科書の絵を見て2つの歌 を比べる。 ・1対1対応の方法で比べる。	第2の校歌 「みんなの色」を聞いてみよう 歌詞を見て気付いたこと・は てなを話し合おう。	第2の校歌 「みんなの色」の謎に迫る。 歌詞に出てきた場所はどこだ ろう。	なかよくなりたいな ・学校探検で、出会った人と 仲良くなるために名前カード を渡しに行く。
3	生活 生活 生活 こんなこと あったよ ・学校探検に行ったことを 絵や言葉で表す。 ・絵や言葉をもとに行っ た場所を紹介する。 ・下駄箱いっぱい	生活 生活 生活 こんなこと あったよ ・学校探検に行ったことを 絵や言葉で表す。 ・絵や言葉をもとに行っ た場所を紹介する。	国語 国語 国語 どうぞ、よろしく【P35～37】 ・友達をいっぱいつくるた めに名前カードをつくる。 ・自己紹介をしながら名前 カードを交換する。	体育 体育 体育 ゆうぐあそび ・どうやって遊ぶか、ど うやって使うか決めな がら遊ぼう	図工 図工 図工 みてみて、いっぱいにつ くったよ ・なかよしタイムの読み聞 かせから想像を膨らませ て、自分だけのパンを作 る。
4	算数 算数 学活 なかまづくりとかず ・教科書の絵を見て気 づいたことを出し合う。 ・1対1対応で方法で比 べよう。	生活 生活 生活 自分の行きたい場所 を探索する。 ・保健室、用務員室、 給食室、理科室など	生活 生活 生活 なかよくなりたいな ・学校探検で、出会っ た人と仲良くなるため に名前カードを渡しに 行く。	算数 算数 算数 なかまづくりとかず ・教科書の絵を見て気 づいたことを出し合う。 ・1対1対応で方法で比 べよう。	図工 図工 国語 みてみて、いっぱいにつ くったよ ・からすのパンやさん ごっこでやり取りを楽し む。
給食(12:00～準備)					
掃除 昼休み					

第2章

各教科等における 学びのつながり

授業展開例

お話

東京都教育庁指導部義務教育指導課

吉田 元先生

東京都昭島市立光華小学校

安藤 浩太先生

国語科の特徴

国語科は「言葉による見方・考え方」を働かせながら、様々な言語活動を通して、言葉を正確に理解し適切に表現できる資質・能力を育む教科です。

幼児期では、遊びや生活の中で経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養っていきます。気持ちや行動をコントロールしたり、他者とやり取りしたり、絵本や物語を楽しんだりするなど、言葉を介して身近な人と関わりながら多くのことを学んでいます。そしてそれは、資質・能力の育成に大きく寄与しています。

また、幼児期では自分なりの言葉で話すこと、友達や保育者の話を聞くこと、いわゆる「話すこと・聞くこと」といった音声言語が中心であり、小学校では、そこに「書くこと」「読むこと」といった文字言語での学びが加わります。このような用いる言語の特徴を自覚し、幼児期に育まれた言葉に対する感覚や言葉で表現する力を生かしながら、円滑に接続できるようにすることが求められます。そのために、絵本や紙芝居などの児童文化財を教材や学習活動に取り入れたり、幼児期の学びを生かし、環境の構成を工夫したりするとよいでしょう。

そういった言葉の育ちは、国語科だけでなく、小学校でのあらゆる学習の基礎になっていくと言えます。

幼児期の遊びを通した学び

遊びや生活の中での様々な感動体験を言葉で伝えたり、聞いたりしながら、話すこと、聞くことの楽しさを味わいます。そうして保育者や友達と心を通わす中で、絵本や物語に親しみながら豊かな言葉や表現を身に付けていきます。また、遊びや生活の中で、文字に親しみ、興味や関心をもつようになります。

具体的には…

- 自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の考えを聞いて取り入れたりしながら遊びを進める面白さを味わう
- 園庭で知らない虫を見つけた驚きや嬉しさを友達に伝えたり、絵本や図鑑で虫について調べることを楽しんだりする
- 読み聞かせて読んでもらった絵本を気に入り、繰り返し絵本を見たり読んだりしながら、文字への興味や関心を深める

幼児期の遊びを通して学び

小学校ごっこを通して知っている文字などを書いている。
お店屋さんごっこに必要な看板やメニューを絵と文字でかいている。

目標	【知識・理解】身近なことを表す語句の漢字を中心に、文章の中で使うことができる。 【態度・技能】自分の思いや考えなど表現したいことが明確になるように、筆跡の傾斜に沿って整然と構成を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性】得意がもつよさを活かすとともに、素直に感謝し、感謝を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
学習計画	【他教科との関連】図画工作科で造形の材料を使ってオリジナルキャラクターをつくって遊ぶ。 【学習活動】作成した制作物を主人公にしたお話を書くといった学習の共通性をもつ。物語を書くために、想像力や観察力を生かして出来事を考え、「はじめ・中・終わり」のまとまりごとに物語の内容を整理させる。 【学習活動】出来事を書くには、出来事の順序がわかるように、お話を描いたり、書いたお話を読み直し、間違いがないか確認したりする。 【学習活動】お話を描いたり、書いたお話を読み直し、間違いがないか確認したりする。

【授業展開例】

見通す

前時を振り返り、取り組むことへの見通しをもつ。



★作家のみなさん、図画工作の時間に自分で考えてつくったオリジナルキャラクターが主人公になるお話づくりは期間に達していますか？

- うん、この前は「はじめ」でどんなことが起こるか考えたから、今日は「中」でどんなことが起こるか考えたいな。
- 友達とキャラクターを動かしながらお話を考えたのだけれど、途中で終わったから、その続きからやりたいな。



幼児期の遊びを踏まえた指導の工夫
幼児期の遊び的な学び方を生かして、図画工作で制作したものを様々な場面で自由に動かしながら物語を考えることができるようにする。

お話の中でどんな出来事が起こるか考えよう。



★今日、自分が取り組むことを決めましょう。決めたら、黒板に自分のネームプレートを貼って活動を始めましょう。

- ぼくは、この前キャラクターを動かしてお話ができたから、まずはどんなことが起こったか、書いてみようかな。
- 「中」で、友達と遊んでいて仲直りできるようにしたんだ。今日は、「終わり」の出来事を考えてみようかな。似たようなお話がないか、図画スペースで絵本を探してみようかな。
- 「はじめ」で森に行くってことは決まったけれど、次はどうしようかな。友達に相談してみよう。



★活動(お話世界)スペース、相談(アドバイス)スペース、執筆(かきかき)スペース、図画(言葉の森、面白さの素)スペースなどを分けて、取り組むことができるようにする。

高める

制作物を動かしたり、友達に相談したりして想像を広げ、まとまりごとにお話の出来事を書く。



★(活動スペースでキャラクターを動かしている子に)どんなお話ができそうですか。

- 私のキャラクターは海にきていて、泳げるようになりたいなって練習しているの。
- そうそう、私は「がんばって」って頑張っている役をやっているの。
- でね、応援してくれて泳げるようになって二人は仲よくなるの！

★二人で話し合って、すてきなお話ができそうですね。二人も、似たようなことがあったのかな。

- うん、想像で似たようなことがあったの。そのときも友達が応援してくれたんだ。とっても嬉しかったの。

★あなたと同じように、キャラクターもとっても喜んでくれるのかもしれない。

- そっか。じゃあ、そのことも出来事のカードに書いてみようかな。



幼児期の遊びを踏まえた指導の工夫
子供の学びの場として、読書の楽しさや想像の豊かさを生かす。読書の楽しさや想像の豊かさを生かす。読書の楽しさや想像の豊かさを生かす。

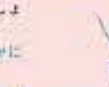
振り返る

本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。



★今日はどこまで進みましたか。最後に振り返りごとがあったらみんなで確認しましょう。そして、次やることを考えましょう。

- 動かしていきくと出来事がたくさん生まれちゃって、頭がゴチャゴチャになっちゃいました。
- そうしたら次は出来事を書いたカードを順番に並べてからキャラクターを動かして確認したらいいんじゃない。
- 私も「終わり」までカードに書けたから、順番通りキャラクターを動かしてみよう。出来事を付け足して、もっと面白くしてみたいです。



振り返りごとを振り返り、次時への見通しをもつ。

合科的・関連的な指導

協働的な学び

個別最適な学び

学びと育ちをつなぐ環境構成について

▶物的環境（もの、空間、時間）

- ①安心できる環境
- ②共同注意の向けやすさ
- ③視線の合いやすさ
- ④人との関わりやすさ（近接性）
- ⑤表現のしやすさ（身体性）
- ⑥表現のしやすさ（発言の仕方）

▶ 人的環境（保育者や教師の関わり）

① 信頼できる関係性

② 受容的なかわり

③ 子どもの資質・能力への信頼

④ 共に面白がり活動を発展させる工夫

▶指導計画の考え方

①個の興味・関心を活かした活動展開

合科的・関連的な指導、弾力的な時間割など

②個の遊びや学びが共有され広がる環境設定や活動

③全体での遊びや学びが個の遊びや学びに発展する活動展開

⇒柔軟なカリキュラム・マネジメント

⇒Ⅰ授業内、Ⅰ単元内、Ⅰ年間など短期・長期両方の
カリキュラム・マネジメントが必要